

日本財団補助金による
1999年度日中医学協力事業報告書

—学会開催に対する助成—

H11年 5月 27日

財団法人 日中医学協会
理事長 中島章 殿

報告者氏名 福地 稔 (日本核医学会担当理事)
 所属・役職 兵庫医科大学 核医学科 教授
 所在地 〒663-8501 西宮市武庫川町1-1
 電話 0798-45-6265 内線 _____
 (直)

講演集・シンポジウム写真等学会に関する資料を添付
 学会・学術交流の名称 第10回 日中核医学会議
 テーマ 放射性同位元素医学利用
 主催団体 日本核医学会・中華医学会核医学分会
 代表者 佐々木 康人・Wan-Ying Qu
 期間・開催地 1999年5月11日～13日・西安長安城堡大酒店
 参加者数 日本側 81名 中国側 120名
 招へい・派遣目的 上記学会出席参加

1. 招へい・派遣研究者 人数 81 人 記入欄不足の場合は別紙を添付。

氏名	所属・役職	研究分野
	(別紙に添付) 資料 1.	

滞在期間 自 1999 年 5 月 10 日 至 1999 年 5 月 14 日

第三回中日核医学会議(3rd Sino-Japan Nuclear Medicine Conference)

— 放射性同位元素の医学利用 —

佐々木康人 (日本核医学会理事長・会長)、遠藤啓吾 (庶務担当理事・会長代行)、
福地 稔 (日本核医学会理事・事務局長)

Wan-Ying Qu (中国核医学会会長)、Sheng-Zu Chen (事務局長)

報告者：福地 稔 (日本核医学会担当理事・兵庫医科大学核医学科教授)

1. 日本核医学界からの主たる参加者・および役職名

遠藤啓吾 (群馬大学医学部核医学科・教授) 日本核医学会庶務担当理事
福地 稔 (兵庫医科大学核医学科・教授) 日本核医学会担当理事
油野民雄 (旭川医科大学放射線科・教授) 日本核医学会理事
小西淳二 (京都大学医学部核医学科・教授) 日本核医学会理事
安東 醇 (金沢大学医学部健康学科・教授) 日本核医学会理事
国安芳夫 (昭和大学藤が丘病院・放射線科教授) 日本核医学会理事
油井信春 (千葉ガンセンター・核医学診療部部長) 日本核医学会理事
利波紀久 (金沢大学医学部核医学科・教授) 日本核医学会理事

2. 日本核医学会からの参加者氏名および所属 (添付資料参照)

3. 通訳の派遣

通訳として現在日本に留学中の核医学研究者で、所属教室の教授から推薦のあった留学生の中から、第三回日中核医学会議に演題を提出して、採用が決まっている者から3名を選出した。派遣に際しては、正式の羽田-西安往復のエコノミークラス航空運賃を支給し、滞在費は自己負担とした。ただし1名は第三回日中核医学会議終了後、日本留学を終えて上海に帰国する研究者であるため、行きは羽田-西安、帰りは西安-上海までの航空運賃とした。通訳をお願いした研究者の氏名・所属は以下の如く、群馬大学医学部核医学教室 袁 志斌(Zhibin Yuan)、群馬大学医学部核医学教室 張 宏 (Zhang Hong)、筑波大学臨床医学系 呉 頤 (Jin Wu)の3名である。3名が提出した演題のコピー、補助金の領収書のコピーは添付資料の如である。

4. 成果・今後の課題

第3回日中核医学会議 (3rd Sino-Japan Nuclear Medicine Conference) は、日本核医学会と中華医学会核医学分会との申し合わせにより、2年に1回中国で開催する事が決められている。今年は3回目を数えるが、両学会の間の申し合わせにより西安市で開催する事が決められ、会場としてANA Grand Castle Hotel Xi'an (長安城堡大酒店)を日本側の希望で決められ、中国側に会場の準備を全てお願いした。中国側との連絡は、準備期間中は常に、課題となり、我々を不安にさせたが、無事終って見ると結果的にE-mailの活用により、十分な意志疎通が取れたと自負している。会場はANA系のホテルで日本人としては、安心感が持てたが、中国側は恐らく経済的理由からと思われるが、人民ホテルと言う別のホテルを利用し、会場まで貸し切りバスを利用した様である。日本からの参加者は80名(添付資料1)、中国側の参加者は120名であった。日本側の参加者の募集は、学会誌上に会告として出したが、演題の提出、中国への渡航、等が決まるにはかなり時間を要し、中国側との間で、認識の差が生じた。日本側は核医学会の役員を中心に、日中に対する役員を決め、(添付資料2)これを参考として中国側の役員をきめて頂き(添付資料3)日本側に通知して頂いた。問題の演題。募集は日本側から28題で、特別講演1を入れても、中国側の希望であった60題には遥かに添えない数であった。その理由は、恐らく今回は発表を初めて公用語として「英語」を採用した事も原因であるかも知れない。公用語を「英語」としたものの、討論が白熱して来ると、自国語が必要になり、通訳のお世話になった。2国間の会議には言葉の問題は必ず付いてくるが、この問題を解決する必要があると思われた。

5. 今後の課題 国際間の核医学に関する会議は、韓国-中国、日本-中国があり、別にアジア・オセアニア核医学会が4年に1回開催されており、世界核医学会も4年に1回開催される。国際的な学術交流は歓迎されるべきであるが、あまり回数が多くなると対応に苦慮するのが必然である。今回も次回の打ち合わせで、中国側は日本での開催を主張し、次に日本・中国・韓国の3国での開催や、3年に1回の開催等が議論されたが、結論は得られず今後の検討課題となった。日本で開催する場合でも、航空運賃は中国側負担、但し滞在費は日本側で負担して欲しいとの希望がある様である。

	氏 名	フリガナ	備 考
1	油野 民雄	Aburano Tamio	旭川医科大学 教授
2	秀毛 範至	Shuke Noriyuki	旭川医科大学 講師
3	瀬戸 光	Seto Hikaru	富山医科薬科大学 教授
4	久田 欣一	Hisada Kinichi	金沢大学医学部 名誉教授
5	横山 邦彦	Yokoyama Kunihiko	金沢大学医学部 講師
6	小西 淳二	Konishi Junji	京都大学医学部 教授
7	榎林 勇	Narabayashi Isao	大阪医科大学 教授
8	末吉 公三	Sueyosi Kouzou	大阪医科大学 講師
9	辰 吉光	Tatsu Yoshimitsu	大阪医科大学 医師
10	土井 健司	Doi Kenji	大阪医科大学 医師
11	角田 はるか	Kadota Haruka	大阪医科大学
12	福地 稔	Fukuchi Minoru	兵庫医科大学 教授
13	福地 淳子	Fukuchi Junko	兵庫医科大学
14	佐藤 功	Satoh Katashi	香川医科大学 助教授
15	佐藤 裕子	Satoh Hiroko	香川医科大学
16	小西 英子	Konishi Eiko	香川医科大学
17	高橋 一枝	Takahashi Kazue	香川医科大学 医師
18	中條 政敬	Nakajo Masayuki	鹿児島大学医学部 教授
19	土持 進作	Tsuchimochi Shinsaku	鹿児島大学医学部 医師
20	谷 淳至	Tani Atsushi	鹿児島大学医学部 医師
21	伊藤 和夫	Itoh Kazuo	札幌鉄道病院 部長
22	安東 醇	Ando Atsushi	金沢大学医学部 教授
23	安東 逸子	Ando Itsuko	金沢大学医学部健康学科
24	柏木 徹	Kashiwagi Toru	兵庫医科大学 助教授

25	東 正祥	Azuma Masayoshi	大阪厚生年金病院 医師
26	長沢 昌史	Nagasawa Masashi	大阪厚生年金病院 医師
27	八谷 孝	Hachiya Takashi	みどりが丘病院 院長
28	八谷 喜久子	Hachiya Kikuko	みどりが丘病院
29	今井 照彦	Imai Teruhiko	奈良県立医科大学 講師
30	今井 幸子	Imai Yukiko	奈良県立医科大学 医師
31	大柳 光正	Ohyanagi Mitsumasa	兵庫医科大学 内科助教授
32	酒木 隆壽	Sakaki Takatoshi	兵庫医科大学 内科医師
33	高橋 敬子	Takahashi Keiko	兵庫医科大学 内科医師
34	國安 芳夫	Kuniyasu Yoshio	昭和大学藤が丘病院 教授
35	國安 好子	Kuniyasu Yoshiko	昭和大学藤が丘病院
36	石井 勝巳	Ishii Katsumi	北里大学医学部 名誉教授
37	石井 典子	Ishii Noriko	北里大学医学部
38	油井 信春	Yui Nobuharu	千葉がんセンター 部長
39	木下 富士見	Kinoshita Fujimi	千葉がんセンター
40	木下 園子	Kinoshita Sonoko	千葉がんセンター
41	内山 勝弘	Uchiyama Katsuhiko	帝京大学医学部 教授
42	内山 寛子	Uchiyama Hiroko	帝京大学医学部
43	鳥塚 莞爾	Torizuka Kanji	福井医科大学 前学長
44	鳥塚 睦子	Torizuka Mutsuko	福井医科大学
45	中島 健二	Nakajima Kenji	京都府立医科大学
46	中島 言子	Nakajima Kotoko	京都府立医科大学
47	濱本 研	Hamamoto Ken	愛媛大学医学部 名誉教授
48	濱本 映子	Hamamoto Eiko	愛媛大学医学部
49	瀬田 晴生	Seta Haruo	日本メジフィジクス

50	真貝 隆之	Shinkai Takayuki	奈良医大腫瘍放射線科
51	遠藤 啓吾	Endo Keigo	群馬大学医学部 教授
52	浅岡 伸之	Asaoka Nobuyuki	GE横河メディカル
53	川野 輝喜	Kawano Teruki	GE横河メディカル
54	奥田 順三	Okuda Junzo	D R L
55	原田 和朗	Harada Kazurou	D R L
56	相田 伸昭	Aida Nobuaki	D R L
57	坂本 澄久	Sakamoto Sumihisa	D R L
58	波多野 純一	Hatano Junichi	D R L
59	小島 靖雅	Kojima Yasumasa	D R L
60	荒川 康彦	Arakawa Yasuhiko	D R L
61	中村 日出彦	Nakamura Hidehiko	日本メジフィジクス
62	本村 廣	Motomura Hiroshi	日本メジフィジクス
63	堤 昭二	Tsutsumi Shouji	日本メジフィジクス
64	竹内 信裕	Takeuchi Nobuyuki	日本メジフィジクス
65	中島 義直	Nakajima Yoshinao	日本メジフィジクス
66	片岡 義隆	Kataoka Yoshitaka	日本メジフィジクス
67	利波 紀久	Tonami Norihisa	金沢大学医学部 教授
68	利波 よしえ	Tonami Yoshie	金沢大学医学部
69	張 宏	Zhang Hong	群馬大学医学部 大学院生
70	斉藤 京子	Saitoh Kyoko	虎ノ門病院 医師
71	日下部きよ子	Kusakabe Kiyoko	東京女子医科大学 教授
72	野口 靖史	Noguchi Yasusi	東京女子医科大学 講師
73	鈴木 肇	Suzuki Hajime	三広メディカル
74	池谷憲生	Ikegaya Kazuo	東芝メディカル

75	李 紅	Li Hon	東芝メデイカル
76	山下貴司	Yamashita Takashi	浜松ホトニクス
77	武田 徹	Takeda Tohru	筑波大学
78	松浦修三	Matsuura Shuzo	旅行社随員
79	木村典子	Kimura Noriko	旅行社随員
80	呉 頌	Jin Wu	筑波大学 留学生